

家族の為の災害対策

少なくとも年に一回、災害対策について家族と話し合う機会を持ち、災害に備えての準備について検討し、避難訓練もして下さい。災害に備え綿密に準備する事と避難訓練をする事は、実際の災害時の迅速な行動に立ちます。

下に家族会議で大事な注意項目を挙げました。災害対策の参考にして下さい。

I 準備する上で

- A. 用紙にご自宅の避難ドア、窓、ガレージのドアの手動切替え装置、水道ガス等の元栓、メインブレーカーの場所、救急箱、緊急用品の配置図を書き、家族全員に配っておく事が大事です。
- B. 集合場所について。広域の災害に遭った際に家に戻れない場合に備えて、外出した家族が集合する場所を常に決めておく事が大事です。
- C. 居住地域以外の連絡先について。離ればなれになった家族がお互いに連絡を取り合うために居住地以外に住んでいる知り合いや連絡代行サービスを連絡拠点として決めておく事が大事です。
- D. お子様に通っている学校と災害対策について事前に協議しておく事が大事です。
- E. 重要な電話番号をメモしておきましょう。
 - A. 消防署 _____
 - B. 警察 _____
 - C. 病院 _____
 - D. ホームドクター _____
 - E. ガス会社 _____
 - F. 電気会社 _____
 - G. 水道会社 _____
 - H. その他（各家庭毎に大事な所）

F. 災害時に必要な用品の一例です。保管場所を決めておきましょう。避難時には直ぐに持ち出せるようにしておく事が大事です。

1. 眼鏡：

2. 携帯ラジオと携帯電話（チャージャーも一緒に）：

3. フラッシュライトと十分な予備電池：

4. 水や保存可能な食料：

5. 衛生用品や薬をまとめた救急箱：

6. 有価証券、重要書類や貴重品（写真、コンピューターデータ、宝石類など）をまとめたスーツケース：

7. 現金とクレジットカード：

8. 旅券と運転免許証：

9. ブランケットや家族の最少必要な衣服や運動靴一式：

10. その他、各家庭毎の特別必需品：

II 避難訓練をする上で

地震、火事、洪水、化学薬品の流出、爆発等多くの種類の災害が存在します。それらは何の警告も無しに多くの犠牲者を生みます。このガイドは主に地震用ですがどの種類の災害に対しても役に立つでしょう。

- A.** 落下物、煙、火、有毒ガス等からどのようにして身を守るか考えて下さい。
例えば、重い家具の固定、食器キャビネットの扉のロック、ガス装置の自動消化、可燃性の物（ペンキ類その他）格納方法を考えて下さい。
- B.** 自宅及び近辺を調べて起こりえる危険を想定し避難路を考えて下さい。
- C.** 市で定めている避難所があれば、平時に行き方を調べておいて下さい。
- D.** 赤十字シェルターの情報は 211 に電話すると得られる事（携帯からは (858)-300-1211 です。）を覚えておいて下さい。
- E.** 応急処置（心肺蘇生法や AED（自動除細動装置）の使い方など）を学んでおきましょう。

III 大地震が起こったら

自然のエネルギーの強大さは想像を越えます。前の項目（I.II）を再確認する上でも次の事を知っておくのは大事です。

- A. 地震が最大振幅に達する速度は非常に早い事。(数 10 秒から 2・3 分以内で建物の崩壊が起こります。) その後続く余震（数日続きます）は複合地震でない限り初震より振幅は小さいが破壊力は強大（初震により基台が弱くなっている為）です。
- B. 周辺の大木、電柱、高層建物が瞬時に倒れて来ると同時に頭上にある物が落下してきます。
- C. フリーウェイでは架橋の落下や道面の陥没が起こり道路も遮断されます。
- D. 家の内外は落下物で埋まり、靴無しでは歩けません。
- E. 長期の停電と断水が起こると同時に通信機能がシャットダウンします。
- F. 火災が発生し、竜巻が起き、類焼が広がります。
- G. 商店を含め、商活動が停止し、復活後もクレジットカードが使えない事も起こります。
- H. 病院は超満員になり救急車も機動不能になります。